



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学原理要約
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	和文直筆、200字詰め 20枚。 資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77336
Type	manuscript
File Information	D001_03.pdf



都市社会学原理 要約

著者は主として次の三つの点を主張して居る
本書の中で

- 一、都市は村落と同様に、人間の生活場^カのための
地域的社会的統一であるが、都市はその
内に社会的文化的交流の結節的機關を有
して居る点において、村落と異つて居る。
都市が村落と異るのは唯その点に在りであ
る。

- 二、都市の社会構造における根幹をなす集團

は世帯と職域である。複雑な一部の都市
 生活はこの二つの集團に根をおろして居
 る。学校は職域の予備集團と考へる事が
 ある。都市生活を多量に^{的及び生活向上の爲}なうしめして居る
 各種の文化的娛樂^{的及び生活向上の爲}教養同好者集團は何
 れも余暇的集團であつて、泡沫的な存在で
 ある。私はそれを生活抗力集團と名づけ
 て居る。かくの如き余暇集團の中に行政
 機關の末端的機能^役を営む地区的集團があ
 る。^{強力な}密りと大きな組織をもつもので

あゝから一類として考之地区集團と呼ぶ。

都市は以上五種の集團の累積的統一として考之る事が出来る。

三、都市の居民はその日々の生活活動の中に規則的な行動を納束し現はす事によつて生活の秩序を保つて居る。かくの如き秩序は生活の空間的秩序と生活の時間的秩序として認められし。

生活の空間的秩序は都市内の販賣機關也

サービス機関のインフラサービス
 工りの中の上に、都市利用圏として現われ
 、又都市の機能の低下に生活を依存する人
 々の通勤圏即ち都市依存圏として現
 われ、居る。

生活の時間帯秩序は毎日に毎週毎に月毎
 に反覆する業務の時間帯に、休養の時
 間の上に、給食又は決算の時間帯の上に、現わ
 れ、居る。

以上三つの点が本書の中で取り扱われて居

の問題の強と總てである。従来の都市社会学者の研究の中には以上の諸点の中の大部は全然問題にあらされて片なへ。以上の諸点は都市生活の根本的な意味と構造に關するものである事は勿論である。次に以上の三點に關する著者の所説を今少しく立ち入つて説明する。

第一の点、即ち都市は文化的社会的交流の結節的機關をその中に宿して居る点において、村落と異なると云ふ点について、著者は次の様

に述べて居る。

村落と都市の尸史は人類の文化の尸史と同様に古いと云う事が出来ると共に、人類のあらゆる文化は村落や都市の中に成長して来たといふ事になる。

都市が村落の地盤の上に成長して来る事は、都市化の程々の段階に於て現在の村落を觀察する事によつて確認出来る。更に、都市の発展に關する尸史家の研究によつても都市が村落の上に現在成長した事は疑い得

ない事實である。村落が都市に發展してゆく
 過程の段階を示して居る。村落を吾人は現在無
 数に散寓する事ゝある。かくの如く散寓に
 よつて我々が知り得る事は、村落の内に社会
 的文化的結節の機關を完せしその種類を増し
 数を増す事によつて漸次その都市性を増すと
 なる事である。(結節的機關の存在しない都市
 は全く考へる事は出来ない。)
 (結節的機關とは、それを通じて人が社会的文
 化的交流を営んで居るもの)である。物資や技

術その他の文化が國民社會内に万遍なく行き
 廻る事の本末は機關である。文化的社會的交
 流の結節的機關としては次の九種が認められ
 る。(一)販賣機關、(二)技術機關、(三)交通機關、
 (四)通信機關、(五)行政機關、(六)治安機關、(七)教
 育機關、(八)信仰機關、(九)娛樂機關。

今日都市と呼ばれ、居るものに右の九種
 の結節的機關は皆集まり、居る事と著者は認
 めた。九種の結節的機關が未だ揃って居る
 い都市段階のものが存すると共に、その各

が多数となり且つ規模が大きくなつて来ると
都市は都市性を増して行く。

都市と村落は共に人同様に生活の地盤を占めて居るのである。他のあらゆる集團は此二つ集團に根をおろして居るのであるからこの二つは人同様に於ける基本的社会と云ふ可きである。著者はこの二つを夏落社会と呼び、共同防衛の機能と生活協力の機能が夏落社会の基本的機能と認めて居る。その上に於いては村落も都市も同様であるが、都市に

はその上に、社会的交流活動の機能が加はつて居る。

第二の点即ち都市の社会構造については、著者は正常人の正常生活の理論を適用する事によつてそれを確認して居る。

多数の人に於ける居住生活をして居る都市に於いては、その基本的な社会生活の構造は、異常人に於ける異常生活の現象形態に混濁されて正しく理解をさまたげられて居る。故に甚だ複雑にして巨大なる都市と云ふ社会的複合体の理

解はそれ等の混雜物を一度除去して理解する
事が必要である。

正常人の日常生活とは、人は学令に達するまでは父母の庇蔭の下に父母の世帯で生活し、学令に達しては学校に通学し、学校を卒業しては生業に従事し、老令に達して生業に耐え難くなれば、子等の庇蔭の下に子等の世帯で又は公共の庇蔭の下に養老院で生活して死に至る。それが正常人の日常生活であるが、幼にして父母の庇蔭の下に父母の世帯に

生活して居ないもの、学令に背して通学を
いこの、学校を卒業して仕事につかないもの、
老朽して子等や公共の庇護の必要にないもの
、これ等は皆異常人口である。正常人口は異常
人口の別なく、正常生活を送んで居ない場合
は比喩的異常生活である。

異常人口又は異常生活のみによつては、都
市の生活は存続し得ない事は明白であるか
ら、都市の基本的社屋構造は正常人口の正常
生活を基本として居る事は當然と考へられる。

職業の種類により地位により多少の時間的
 なずればありとしても、都市の正常な成年者
 連の生活が世帯での生活と職場での生活が日
 々の生活の本流をなして居る事には變りはない。
 又世帯での生活と職場での生活を本流と
 する生活は、そのまゝ、如何に永く反覆しても
 都市生活を存続し得る、社会生活の構造であり、
 事も明かである。

又、都市に於ける一世帯の生活時間を制限
 し、片よものとしてば、その世帯内の誰かが

所屬して居る職場の時と学校の時と以外の
 ものは殆どない。職場と学校の間に都市住民の
 生活を拘束して居る力は外には殆どない事を
 意味する。職場と学校のみが都市住民の日々
 の生活の型を律して居る力をもつもので、そ
 の他の集団は殆ど余暇的集団として存在し拘束
 力もそれ程強いものではない事を意味する。
 二水準の二つの集団は世帯と昔に都市生活の
 基本的な互換をなして居る事である。

都市生活に見うる文化教養娯樂生活向上

その為め各種の集團は皆余暇集團と呼ぶべき
もので日々の生活に不可欠のものではない。

著者はこれを生活拡充集團と名づけよう。

行政的地方団体即ち地方自治体と産業團體と

は生活拡充集團の一環として解し得るものであ

るが、特殊の意義と力をもち、^{団体}として著

者をこれを都市にありの特殊団体として取扱

うべき。

第三の点即ち都市住民の其日々の生活の中
に示して居る規律について、空間的に地域

の上に現わして居る規律的・時間的・空間的・経済的の
中に現わして居る規律とかある。

地域の上に現はれて居る規律について
従来多くの都市社会学者がそれを研究した。

著者が従来の都市社会学者と同一の問題を取

扱つて居るのはこの問題のみである。此問題

について著者は若干の新しい見解を示して

居る。自然都市の社会的統一性を破認し得る

唯一の根拠は彼が第一生活地区と名づけて居

るものの連続的統一以外には無いと彼は云

この点から、その第一生活地区は特定物次員に關する利用機關の卷である。

けれども地域の規律性の問題に關してはこゝではこれ以上は述べてない。彼が次に問題にして居る時の規律性は社会科学の中での全く新しい概念であるから説明するまでもなくのことである。この点からいふと、

職場毎に一日中の勤務の時間、休息の時間があり、一週毎に休業の日、賃銀支拂の日などの規定がある。そのほかの規定は毎日に週毎に正

確に反覆して居るものであらう。学校に於ても
 週毎に又一学年毎に反覆して居る行動の時
 間的原則が定まつて居る。かくの如く規則正
 しく反覆する事を規定されて居る行動の中で
 最も嚴格に取り扱はれて居るのは勤務に關す
 るものである。勤務の時は一日の中の最も
 効果的な時が用いられて、娯樂や教養の爲に
 は余暇の時が与へられて居るであらう。故
 して人が体系的に勤務の時間的規定の拘束を受
 けないのは学令期以前の幼児と老朽して居る

老人~~は~~丈である。社会構造はそれ等の人の生活には無関心である。

人が体験的にその周期的到来に強い関心を持つものは決算の時と休業の時とである。給料支拂いの際は決算の時の一つの例であるが、日給制、週給制、月給制の別は人々の生活の型にも影響して居る。又決算のりが大きな生活の波をつくって居ることは色々の調査にも現われ居る。一般に都市では農村に於けるより決算の周期が甚だしく短い。農村では収

獲か一年を周期とする場合が多いので、年一
 回の獲り、収決算の形が多い。要買による即決
 ではなく、貸借の形をとるが多い。これは定
 着してあり、信義的であり、威信的であり事
 に因りてしつと居る。都市には是れと全く対
 照的な予想がある。農村は都市のかくの如
 き、牧場的相違は、^{根本的には}知識者の社会と未知の人々の
 社会との別によるに關係して居ると思われ
 及、獲れない時の秩序も有る。そのうち、それが亦農村社会と都市社会に
 に、フーは二、三の説明より、余程はな
 異った性格を有る居